

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年12月16日

計画の名称	秦野駅北口周辺地区の都市空間を生かした快適な歩行環境の形成と都市機能の集積												
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	秦野市												
計画の目標	<p>本地区は、1日平均4万人以上が乗降する秦野駅の北口に位置し、駅前の老朽化した複合ビルの建替えや同駅南口で実施している土地区画整理事業終了後には、駅周辺の利用人口がさらに増えることが見込まれる。</p> <p>そこで、本市固有の自然・地形的環境を生かし、丹沢の雄大な山並み、名水や水無川のせせらぎが感じられる歩行空間を整備し利用者の利便性を高めるための指針である「水無川風の道構想（平成22年5月策定）」を推進するとともに、市制施行60周年を機に旧役場跡地をメモリアル的要素を持つ広場として整備することにより、中心市街地におけるオープンスペースを十分に確保し、歩行者の回遊性を高めて快適で潤いのある都市空間を形成する。</p> <p>また、秦野駅北口広場に接する老朽化した複合ビルを住宅、商業に加えて待機児童解消を目的とした小規模保育事業施設等の公共公益機能を併設した複合施設に建替えるとともに、近接する一団の民有地を複合的に活用する検討を行うなど、民間活力による将来に向けた持続可能な都市機能を集約整備し、市民生活の利便性の向上と生活空間としての魅力の創出を図る。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,250	A	1,250	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H26当初)	中間目標値	最終目標値 (H31末)
1	計画区域内における事業実施個所の緑視率を1.7%（H26）から13.4%（H31）に増加させる。 快適で潤いのある都市空間の形成として、近景の緑化に配慮した生活環境の整備を実施することから、歩行者目線で捉える緑の量として、緑視率を調査する。	1%	%	13%
2	秦野駅北口の駅舎西側を通行する平日歩行者数を1,880人（H26）から2,700人（H31）に増加させる。 秦野駅北口を利用する13,731人（平成26年2月実施の14時間調査）の内、約7,000人が駅ビル内に集中していることから、駅前広場西側にペDESTリアンデッキを増設することで駅へのアクセス性を高め、混雑の分散化を図る指標として、秦野駅北口の駅舎西側を通行する歩行者数を調査する。	1880人	人	2700人
3	大秦ショッピングセンターの商業・業務エリアにおける店舗等の面積を1,143㎡（H26）から1,350㎡（H31）に増加させる。 駅前広場の再活性化として、大秦ショッピングセンターの建替えによる商業・業務エリアの拡大や、駅周辺の居住空間の整備を行う。再活性化の目標として、大秦ショッピングセンターにおける商業・業務エリアの店舗等の面積を調査する。	1143㎡	㎡	1350㎡

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H27	H28	H29	H30	H31			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	秦野市	直接	秦野市	-	-	秦野駅北口周辺地区都市再生整備計画事業	地域生活基盤、高質空間、公園、89.7ha	秦野市						1,138		-
												小計					1,138		
住環境整備事業	A16-002	住宅	一般	秦野市	間接	民間	-	-	今川町地区優良建築物等整備事業	優良建築物等整備事業1,143㎡	秦野市						112	1.42	-
												小計					112		
										合計						1,250			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

<p>事後評価の実施体制</p> <p>秦野市職員による評価を実施</p>	<p>事後評価の実施時期</p> <p>令和2年3月</p> <p>公表の方法</p> <p>秦野市ホームページで公表</p>
---------------------------------------	---

事業効果の発現状況

<p>定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車駐車場の建替え工事に伴い、壁面を緑化し、駅前の緑視率の向上に貢献した。 ・ペDESTリアンデッキ増設、上りエスカレーター設置により、利便性が向上し、駅舎西側の歩行者数が増えた。 ・大秦ショッピングセンターの建替えにより商業・業務エリアにおける店舗等の面積が増加した。
<p>定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画区域内を拠点とする、まちづくりに関するNPO法人が発足し、にぎわいづくりに向けた機運が向上した。

特記事項（今後の方針等）

<ul style="list-style-type: none"> ・今後も良好な歩行空間確保や路線バス等の公共交通の利便性向上に向けた取り組みを進め、駅から歩いて行ける地域の活性化を図る。 ・ソフト施策（空き店舗活用事業の周知、情報発信、イベントの開催）により、魅力ある駅前の空間を創出する。 ・低未利用地（市有地）の活用と空き家、空き地の増加に対応する施策を検討。 ・ペDESTリアンデッキ増設により、回遊性が向上した一方で、新設したエスカレーターに通行量が集中している。駅周辺のマンション開発も検討されており、駅利用者の増加が見込まれるため、駅前広場の動線については引き続き検討の必要がある。 ・駅前広場周辺道路では、歩行者と自転車が混在しているため、自転車走行空間の整備や自転車利用者のマナー向上を推進する必要がある。 ・自転車駐車場を整備したことで放置自転車の減少が期待できるが、啓発活動も重要であることから、定期的な啓発を継続する。 ・土日に、電車で訪れたサイクリストに開放している駐輪場の一部のスペースについて、サイクリストの拠点として地域に親しまれる空間となるよう努める。（情報発信） ・にぎわい創出の施策の検討、商店街の活性化や近隣住民の交流を推進する。（まちづくりに関するNPO法人の活動支援、イベント開催支援） ・計画区域外の地域資源と連携したにぎわい創出の取り組みを推進する。
--

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	計画区域内における事業実施個所の緑視率	
	最終目標値	13%
	最終実績値	13%
自転車駐車場の建替え工事に伴い、壁面を緑化し、駅前の緑視率が向上したことにより、目標値を概ね達成した。		
2	秦野駅北口の駅舎西側を通行する平日歩行者数	
	最終目標値	2700人
	最終実績値	7061人
事業が完了したことから、ペDESTリアンデッキの増設に合わせ、上りエスカレーターを設置したことにより、秦野駅自由通路へ直接、直線で結ぶ歩行者動線ができ、駅利用者にとって経路の選択肢が増えたため、目標値を達成した。		
3	ショッピングセンターの商業・業務エリアにおける店舗等の面積	
	最終目標値	1350㎡
	最終実績値	1308㎡
設計変更により、目標値を下回ったが、市役所連絡所、保育所、郵便局等の都市機能の集約を図ることができたため、計画目標は達成した。		